



長財第91号  
令和4年10月27日

長浜市議会議長 松本 長治 様

長浜市長 浅見 宣義



議会運営に関する申し入れの詳細について

令和4年10月21日付け長財第89号議会運営に関する申し入れについて、令和4年長浜市議会定例会令和4年10月20日総務教育常任委員会にかかる詳細を別紙のとおり送付します。

日時：令和4年10月20日（木）16:23～16:57

場所：第1・第2委員会室

出席者：市議会議員 鋒山紀子（委員長）、中川勇（副委員長）、大橋延行、押谷正春、押谷與茂嗣、北川陽大、高山亨

市当局：浅見宣義（市長）、福永武浩（総務部長）、森宏志（総務部次長）、伊吹定浩（総務部管理監兼人事課長）、今田元宏（総務部人事課長代理）、河瀬恵子（総務部財政課長）

審議案件：【市議会指定事案】長浜市職員の定年の引き上げ及び再任用について

**※1 侮辱的又はそれに類する言葉、言い回し**

**※2 威圧的な言動**

鋒山委員長：質疑のある方は挙手をお願いします。

押谷與茂嗣委員：今、説明の中で部長職の方は再任用の場合は主幹級でとのことであつたが間違いないですね。それなら、昨年度、一部の部長さんで、名前は控えさせてもらいますけども、課長代理、後の方は主幹、ああいう現象が起きたのは、伊吹さんが人事課に来る前の話やったんですけど、それはどういう具合なことでしょうか。

伊吹管理監：確におっしゃるとおりのところもありますけども、再任用につきましては、管理職で退職した職員が一般職・・・

押谷與茂嗣委員：**※2（割り込んで）**ちょっと待って。委員長よろしいか。

押谷與茂嗣委員：前の再任用で、ある方2人は課長代理、後の方は、事件でも起きたならわかるが、何も無い中で何で主幹級に、何でこういう差別的な人事がされたのですかということを知っている。わからなかったら、わからなくていいが・・・

鋒山委員長：伊吹管理監、ご答弁いただけますか。

伊吹管理監：今、再任用制度についてお二人がとういことがございましたけども、平成28年度から、この再任用制度が始まっております、当然、職務の中身とか・・・

押谷與茂嗣委員：**※2（割り込んで）**ちゃうがな。

鋒山委員長：伊吹管理監、押谷議員の言うことに・・・

押谷與茂嗣委員：わしの言うことに答えてくれたらいい。何で2人は課長代理で、他の方は何も無いのに主幹で、何か色んなことでも起きたならそれで一定理解はできますけど、完全に人権無視という具合にとれますよ、と。そんなことあつたのは、これは伊吹さんのときでないんで、これはおたくの責任で言うてませんよ、なぜそういうことがされたんですか、今ここで説明できなんなら、その時の方に、誰がされたかその時の方に聞いたらすぐにわかるんで、次の委員会のときに来てもらって説明してもらったら結構ですんで、委員長よろしくをお願いします。

鋒山委員長：伊吹管理監・・・

押谷與茂嗣委員：**※1 伊吹さんにそら答えられんわ。わからんて言うたらいい。**

鋒山委員長：お答えいただけますでしょうか。

伊吹管理監：押谷議員おっしゃるとおりのところも確かに現実としてありますが、

押谷與茂嗣委員：※2 (割り込んで) ちゃうちやう。「ありますけど、」とかそういうことを聞いているんとちゃう。何でそういうことが起きたんですか、と。伊吹さんは知られんから、わからなかったら、その当時の方がおられるんですから、一回きちっと調査して、次回の委員会で報告をお願いします、と言うてるんです。

鋒山委員長：伊吹管理監、押谷議員の質問の趣旨をご理解いただきまして、ご答弁いただけますか。

押谷與茂嗣委員：次回に言うたらええ。

伊吹管理監：全体の人事の中で、当時決まっていってる話になります。で、それぞれ・・・

押谷與茂嗣委員：※2 (割り込んで) 違うて。

鋒山委員長：お聞きください。

浅見市長：最後まで聞いてください。

押谷與茂嗣委員：※1※2 シャベってんな。市長にしゃべってるんと違う。

鋒山委員長：しばらくお待ちください。市長、不規則な発言は・・・

押谷與茂嗣委員：(市長は) そんなこと言うたらあかん。(市長の発言を) とめないかん。

鋒山委員長：管理監の説明をお願いします。

浅見市長：最後まで発言させてください。

押谷與茂嗣委員：おたくはしゃべったらあかんやないか。委員長、整理させて一な。

鋒山委員長：発言整理のために、ただいまから休会します。

## 《再開》

福永部長：委員ご指摘のとおり、例えば、部長職で退職されて再任用された方、これまで何人かいらっしゃいます。その中で、担っていただく職、職務の内容でありますとか責任の度合い、そうしたものに応じて管理職として任用する場合があったということでございます。これまでから、部長職で退職された方が再任用された場合、管理職となっている方もいらっしゃいますし、そうでない方も複数いらっしゃいます。

押谷與茂嗣委員：これは、福永部長はその時部長でないで、はっきり知られんと思いますよ。※1 言葉のあやで上手に工夫していると思いますよ。そしたら、仕事の重さという意味でおっしゃるんでしょ。それは十分検討されているんですか。おたくはその時総務部でおられんかったんでしょ。健康福祉部と違いますか。そやろ。それならどこでそうはっきり言えるのか。バックデータはどこにあって、そういうことが言える？今後の、令和4年度はわかりますよ。ちゃいますか。これを、※1 おたくがのうのうとやね、令和4年度におっしゃっておられるなら一定理解はしましょう。令和3年度の方は、調べましたか。調査されましたか。調査せんといて、自分の思い込みとか、令和4年度を見ての話、タイムスリップとか、それはおかしいと思います。委員長、お願いしときますけど、そのときの方に、担当でおられた方に、一度事情聴取して、別に委員会に来てもらわなくて結構ですので、委員長、副委員長にお任せをしておきますので、一回、きちっと調べて次回の総務教育常任委員会にご報告をお願いしたいと思います。よろしくをお願いします。

鋒山委員長：福永部長は何かございますか。

押谷與茂嗣委員：※1 福永部長は知らんて。

鋒山委員長：いやいや、お待ちください。

福永部長：今申しあげましたのは、退職職員の再任用に当たっての考え方を申しあげた訳でございます。その後、誰をどの部署に配置するかというのは、これは人事管理上の問題でございますので、この取扱いについては慎重にお願いしたいと思えます。

押谷與茂嗣委員：慎重に、おたくの方が慎重でないやろう。おたく、その場においてないのに、慎重にも何も、**※2 おたく、今の発言取り消さないかんで。ええんやね。取り消さんね。問題になりますよ。**慎重に、わし、何か不規則な発言してますか。今、管理監から部長で辞められた方は主幹ってはっきり言われましたやん。それやのに、昨年、このようなことが発生しているから、おたくら2人わからなかったら、当時の人にきてもらって説明してもらたらよろしいやん。再任用で、それぞれの場所についておられるんやから。ちゃいます？委員長、よろしい？一回、ここで議論しても時間ばかり経つんで、委員長にお任せしときますんで、その時のことを十分調査して次の総務教育常任委員会で報告をお願いします。

鋒山委員長：論点整理のために、暫時休憩します。大変重要な問題ですので、暫時休憩をさせていただきます。

#### 《再開》

福永部長：先ほど、退職職員の再任用に当たっての基本的な考え方を説明させていただいたところでございます。そのうえで、個々個別の人事管理の内容につきましては、先ほど申しあげましたのは、委員長、副委員長において確認をいただく際に、人事管理の中での状況について十分にご配慮をいただきたいという思いから先ほどのお願いをさせていただいたということでございます。慎重ということでありますとかそういったところについて訂正させていただきまして、十分ご配慮をいただきたいという思いから発言した内容でございます。ただ、経過につきましては、先ほども申しあげましたように、これまで、延べになりますけれども、部長職で退任された方は、毎年の任用になりますので延べになります、24人の再任用職員がいらっしゃいました。そのうち延べで16の方が管理職として任用させていただいたという状況が数字としてございます。その状況がございまして、その理由ですとか、理由と言うとおかしいんですけども、理由も含めた人事管理の内容については全体的な人事異動の中で決定されたものでございますので、そのへんも十分に配慮いただきたいというふうに思います。

押谷與茂嗣委員：委員長、副委員長に任せとく。わしは、今では納得していない。

鋒山委員長：過去において慎重に対応してきたというご答弁で、委員会もそのような配慮を頼むというご答弁でよろしいでしょうか。

押谷與茂嗣委員：これで終わった訳でないということだけ確認してください。

鋒山委員長：押谷委員、挙手をお願いします。

押谷與茂嗣委員：もう言うたやろ。私は納得してませんので、また次回も聞きますよ、とうことを言っているだけ。

鋒山委員長：ではそういったことも含めてご答弁いただくということでもよろしいでしょうか。

押谷與茂嗣委員：異議なし。(福永部長の挙手をみて) **※1 福永君には聞く必要ない。**人事案件だから配慮してくださいよ、ということ。これは、私も一定理解している。けども、私はそれでは理解していない。次のときにまた聞きますよと。ほんで終わりですやん。次行こ。

令和4年長浜市議会定例会令和4年10月総務教育常任委員会

日時：令和4年10月20日（木） 17：25～17：55

場所：第1・第2委員会室

出席者：市議会議員 鋒山紀子(委員長)、中川勇(副委員長)、大橋延行、押谷正春、押谷與茂嗣、北川陽大、高山亨

市当局 浅見宣義(市長)、福永武浩(総務部長)、森宏志(総務部次長)、柴田拓也(総務部政策デザイン課長) 小野祐二(総務部政策デザイン課副参事)、河瀬恵子(総務部財政課長)

審議案件：【報告事項】長浜バイオ大学と地域の連携に関するこれまでの検討状況について

※1 侮辱的またはそれに類する言葉、言い回し

※2 威圧的な言動

市長：あっ、委員長いいですか。あの政策デザイン課の前にちょっと、今回の、説明の、

鋒山委員長：市長

市長：はい、よろしいですか。

押谷與茂嗣委員：※2 (委員長の許可を得ず) 市長ほらあかんて。ほんなもんあかんて。

市長：よろしいですかね。委員長の今、許可を今得ましたので、発言させていただきます。

押谷與茂嗣委員：〇〇〇(マイクが入っていないため聞き取れず)

鋒山委員長：どういった内容の、あの、お話になりますか、

市長：あの一、

鋒山委員長：あの、柴田課長のご説明…

押谷與茂嗣委員：※2 (委員長の許可を得ず) ほんなもん市長てほんなもんおかしいて、おまん。

市長：まえぶれというか

押谷與茂嗣委員：※2 (委員長の許可を得ず) 前触れてええて。

市長：こういう説明をちゃんとしといた方が、

押谷與茂嗣委員：※2 (割り込んで) ほんなもんしてもらわんでもええて。

市長：柴田課長の説明を、えー、わかっただけということ、

押谷與茂嗣委員：※2 (割り込んで) わからんほんなん、わからん、委員長いらんてほんなもん。柴田君だけでええて。柴田君だけで。

市長：委員長にお任せします。

鋒山委員長：まず一、あの一、それではあの一、柴田課長からの、政策デザイン課からのご説明をうかがって、市長に補足という形でお聞きしたいと思います。それでよろしいですか？

市長：はい、わかりました。

押谷與茂嗣委員：※2 (委員長の許可を得ず) 何考えてるんや。

鋒山委員長：はい。では、柴田課長。

柴田課長：はい、委員長。

鋒山委員長：はい、柴田課長。

押谷與茂嗣委員：※2（割り込んで）※1 簡潔明瞭に言わなあかんぞ。

《柴田課長が案件の説明を行う》

押谷與茂嗣委員：あの一、何べんも言うで耳にタコができたかもわからんけど、柴田君な、いま一長浜市の情勢、まあ財政課長も出席してやあるで後でまた聞かせてもらうけど、新年度、令和5年度は、各部局に5%削減をお願いしますという通達が流れてますね。先ほど色々、部局ちゅうか、あの一、文化ホールをするとか、あの一、支所を色々、なんちゅうんすか、スリム化して圧縮・削減していこうと。大変市民にもある程度、負担もこれから発生してくる中で、この事業っちゅうのは、先ほど柴田君から説明があったように、今年の5月ですわね、これ一、え一、高専の話がどうもむずかしなってきたという中で、どこで話がどうなったか知らんけども、バイオ大学の公立化と。まああまりにも唐突すぎるし、はっきりゆうて、長浜にそれだけの財政があるかということと中々難しいものがあるのは皆さんわかっていると思います。そんな中で、あえて、どんだんどんだん、まあ、例えば事業をする場合ですわね、え一、来年事業をされたら令和4年度に色々ヒアリングとか、色々、調査・研究して、新年度の令和5年度で事業をするならまだ一番早い方ですわね。これなんかおまん、5月にゆうて、今何月や？まだ5か月たつたたんやで、いくら市長の案件にしたかて、市民に理解が得られるか一ゆうと私は疑問を投げる、私だけではないと思いますよ。ましてや、このご時世、大変こう少子高齢化の中で、大学を取り巻く環境、よその市町を見ても、大きい財政が豊かなとこでも、統廃合をしておられるところが沢山あります。そんな中で、長浜市がそんなことを今してる余裕があるんかと、柴田君かてこないだわし一、喋ったと思うんです、僕はね。SDGsとか、カーボンニュートラルとか、今、国から色んなやっってくださいよと、国は応援しますよという事業が沢山あります。しかしほれ何一つ、まだこないだちょっと話が出かけたとこなんで、まだ全然入り口の入り口ですやん、そういうことができない中で、あえて、これに、人が決まってる中で、人員もだんだんあの一、あ一、効率化していこうという中で、そんだけのスタッフがあるかということ、こんなもん無理やと思うのは私だけではないと思いますよ。そんな中でやね、次々次々とやっていただくのは結構ですけども、もう少し、市民目線になった仕事、市民目線になった事業をしてもらうのが、おたくらの仕事であると思います。ほして、え一今ほど色々、バイオ大学のことを仰いました。あれみなバイオ大学から提供をもらわあた資料を、柴田課長が喋ってやあるでしょ、こっちで研究したんでなく、たまたま、ちょっとザーッとめ一通しただけでしょ？どうなんすか、それちょっと、教えてください。

鋒山委員長：はい、柴田課長

柴田課長：はい、委員長。はいあの一現状、え一、提案していただいたベースを基に検証をしております。

押谷與茂嗣委員：※2（割り込んで）ほやろ。

柴田課長：あの一、

押谷與茂嗣委員：※2（割り込んで）ほらほうえ、わかったる。

柴田課長：はい。

押谷與茂嗣委員：はい、委員長、よろしいか。

鋒山委員長：はい、押谷委員。

押谷與茂嗣委員：ほんならね、向こうの受け売りをまるっぽ、100%とは言いませんけどほとんど丸のみで、やっておられることに、ほらちょっと心配を先立つのは当たり前やと思いますよ。今、財政が厳しいという中で、5%削減をお願いしてやーるのは、河瀬課長、まちごてませんわね、どうですか。どうぞ。

鋒山委員長：ご答弁いただけますか。河瀬課長。

河瀬課長：委員長。

鋒山委員長：はい、河瀬課長。

河瀬課長：10月に発出いたしました予算編成に置きましては、そのような、あの、ことはまだ書かれておりませんが、今、経常経費のえー、見積もりを今、えー、各課しているところでは、大体のめやすとして、それをめどにお願いしたいということは申しております。

押谷與茂嗣委員：委員長。

鋒山委員長：はい、押谷委員。

押谷與茂嗣委員：ほら抽象的なことはゆうたらあかんやろ。こないだわしが質問した時おたく、「抽象的な」ってことゆうてたけど、わしはそのものズバリいうてるんやから。ほんなら、隣に市長がやあるさかいて遠慮せんという、はっきりしたものを言わなあかん。5%ちゅうような数字は出たるやん。**※1** ほんな二枚舌でしゃべったらあかんやないか。 **※1** もうええわ。おたくにきかんわ。 柴田君、ほんでな。先ほど、よろしいか。

鋒山委員長：はい、

押谷與茂嗣委員：委員長。

河瀬課長：委員長。

鋒山委員長：はい、あ、

河瀬課長：委員長よろしいですか。

鋒山委員長：はあ～、

押谷與茂嗣委員：よろしいか。

鋒山委員長：まだ一、補足することがおありなんですか、河瀬課長。

押谷與茂嗣委員：**※2** いやもう、聞いても一緒やでええ。

河瀬課長：はい。

鋒山委員長：あの一、的確にお答えくださいね。

押谷與茂嗣委員：**※2** (割り込んで) ちょ、さっき、委員長、委員長、ちょっと待ってえな。

鋒山委員長：ちょっとお待ちください。

押谷與茂嗣委員：**※2** (割り込んで) 委員長、まってえな、わしがゆうてるんやで。

鋒山委員長：あの、補足したいと仰ってるので。

押谷與茂嗣委員：**※2** ちゃう、補足したいなら最初に言わんか。お前、5%ゆうてみんなでたるやんけ。

北川委員：まあまあ…（押谷委員の隣に近づく）

押谷與茂嗣委員：**※1** ちょっとお前は聞いとけ。 待たなあかん。（北川委員に対して）

鋒山委員長：あ、ああ…うん、ちょっとお待ちください。

押谷與茂嗣委員：ちょっと待ちいな。わしが言いかけた話やんか。

河瀬課長：委員長、よろしいですか。

鋒山委員長：河瀬課長、

押谷與茂嗣委員：※2 (割り込んで) 課長お前、

鋒山委員長：はい。

押谷與茂嗣委員：まだええことないて、

鋒山委員長：的確にお答えくださいね。

押谷與茂嗣委員：※2 (割り込んで) こないだやな、ちゃうて、委員長まちいな。

鋒山委員長：はい。ちょっとお待ちください。

押谷與茂嗣委員：※2 (割り込んで) こないだやな、わしが質問した時に、去年の年末の時に6千3百何万のお金を聞いたときに…

鋒山委員長：暫時休憩いたします。

### 《再開》

鋒山委員長：再開いたします。

河瀬課長：はい。

鋒山委員長：はい。では休憩前につき、再開いたします。河瀬課長。

河瀬課長：はい、委員長。えー、予算編成の今、過程ですけれども、経常経費の見積もりを各課からお願いをしております。その時に、来年度いくらかの、財政規模になるかというのは、7月にサマーレビューというのを実施いたしまして、中期財政見直しをお示しをしました。その中で、この見直しで行くと、えー、昨年度と比較して5%のシーリングが必要であろうと思うけれども、あの、経常経費の見積もりの結果、歳入と歳出を見た結果、そのシーリングの額は変わってまいります。今、ですので、皆さまに、えっと、庁内でお示しをしているのは、それを目安としてということをお願いしているのであって、その経常経費をすべて集計いたしまして、結果、どの程度のシーリングになるか、もしかしてシーリングにならないかもしれません。そこは今のところではわからないと、いうところでございます。以上です。

押谷與茂嗣委員：はい、よろしいわ、そんなもん。

鋒山委員長：あつ、はい、おしっ、

押谷與茂嗣委員：※1 誠意のある答え方でないでもう結構です。

鋒山委員長：はあ～、おしっ、押谷委員。よろしいですか。

押谷與茂嗣委員：もう結構、はい、委員長。

鋒山委員長：はい、押谷委員。はい、では…

押谷與茂嗣委員：あの一、柴田君、ほうゆうことよ、意味わかってくれたか。おたくら肝心の市民目線の仕事を横に置いて、いくら市長にいわれたかて、そこは市長ちょっと待ってくださいよていうのがお前らのしごとちゃうんか。ましてや、※1 市長はやな、政治のど素人やろ。ほんなもんでできるはずないやろ。※1 お前らがほこで、あかんことはあかんとか言うことは言わなあこかい。ほんな※1 忠犬ハチ公みたいなことゆうてたらあかん。

はっきりゆうて、今、近々で、あの県やら国からお金が出てくる蛇口がいくつもあるんやから。ほれを国はしませんかて言われてるわけや。ほんならほれに乗っ取った政策デザインをするのがおたくらの仕



事やろ。ほれが全然できてないやんか。ほら人間の能力は決まったさかいに、ほらいくら柴田君ができるゆうたかてほらようけできんて。聖徳太子じゃあるまいし。ほやろ？ほんで今の話は、この今の経済状況、長浜市の場合、市民生活も大変コロナで疲弊してきてる。んで、北部には色々こないだの洪水で、えー、直さんなんところがすごい出て来た。お金が無いですぐ直らん。そういうところお金を追求、投入してきて、市民に、皆さんに安全安心な生活をしてもらうのが我々の仕事やろ？ほんなことさておいて、ほんなバイオ大学の公立して何の市民の幸せになるんえ。ほら、確かに、公立の大学、あの、大学が、あの、市町に大学があるとイメージとしてはいいですよ？しかしほんなこと今やってる場合か？そらもつとせんなんこと、せなあかんのちやう？ほれをわし、僕は言いたい、柴田君にゆうてるんですよ。

鋒山委員長：はい。え、柴田課長、はい。

柴田課長：あの、公立化するっていうことを決めてるわけではございませんので、

押谷與茂嗣委員：※2（割り込んで） わかったるそんなもん、ほうゆうてるんやで。

鋒山委員長：あー、おきさくださいー押谷委員——。

柴田課長：あの、しっかりと、大学っていうのをこれからの人口減少の中で、人材確保とか、えー。経済発展のために重要な役割を果たしますので、いっぱいしないことはありますけれども、検討をしていくことを始めていきたいということで、えー、ご説明しております。

押谷與茂嗣委員：委員長

鋒山委員長：押谷議員

押谷與茂嗣委員：※1 いやほれはおたくらのまやかしの言葉であって、それしたさかいにてどんどん児童数が減ってます。はっきりゆうてよその財政豊かなところで、大学の統廃合が起きてるんですよ？今日の日経新聞にも書いてますけども、まあ大学じゃないけど高校の再編もせんなんて大阪なんか維新がいち早く着手してることなんか記事に載ってますよ。そんな世の中でね、長浜市の財政規模でね、ほんなもんでできるはずない。絵にかいた餅に終わりますよ、投入するお金があるんなら、市民目線にたった事業とか、あー、災害復旧とか、今、生活困窮で弱ってる方に応援するとか、いくらでも、市民の、市民目線の仕事はたくさんある。ほれを何でおたくらはやってくれないかということを感じるのは私だけではないということもゆうてるだけで。※2 もう、答弁は結構ですわ。委員長結構です。

鋒山委員長：いやっ、はい…あの一

押谷與茂嗣委員：※2 終わろ

鋒山委員長：終わろって…

鋒山委員長：はい、

押谷與茂嗣委員：はよ終わって。

鋒山委員長：えー、あの当局の皆様には、あの一、今回えー、この補正予算第6号に対する付帯決議をあの一、うー、提出をさせていただきました中にも、あの一、しっかりと説明を、あ一、していただくと。随時適正適切に、説明をしていただくという風に、あの一、決議をさせていただきましたので、今後、そういったところ、ご注意いただき、いや、ご配慮いただき、あの一、委員会への説明をどうぞよろしく願いをいたします。えー、他に、ございますか。

押谷與茂嗣委員：ええて、ええて、委員長

鋒山委員長：はい、

押谷與茂嗣委員：※2 (割り込んで) ええてほんなもん終えよ。※1 ゆうても一緒やて、ほんなもん。

鋒山委員長：では、大橋委員どうぞ。

大橋委員：押谷委員が、與茂嗣委員が今仰っているんですけども、あの、これはほんとにあの一、前向きに考えていくのか、いろんなことを想定してやっていかないといけないと思うんですけども、その一、先ほど仰られたように、えー、ブランド力があがるとかね？押谷委員が仰られたように、その色々な事を踏まえてやっていかないかん。その中でこの資料を読み込みさせていただいて、少し疑問に思うところが私もございます。えー、この中で、バイオ大学さん、留学生の方もおられるんですが、私あの一、民間の関係でいろんな方からお聞きして、留学生が減っているから入学生徒が減ったんだということがあるんですけども、これには留学生が載ってないんですよ。数が。で、あとあの一、まあ、資料の中で見させていただくと、えー、例に出てるのが、あの一、アメリカの大学が例に出てたり、そして慶応大学の山形の鶴岡の研究所のことが例に上がってるんですけど、このバイオ大学を公立化すると、研究所とは全然違うんですよ。ね？中身が。で、それをこういった例に挙げとかれるから、押谷委員もそういった風に思われるのかもわかりませんので、これを精査させていただいて、

押谷與茂嗣委員：誰が大学せえてゆうたんえ。

大橋委員：あの一、あの、きちっと喋っていただければいいのかなという風に思いますので、まあ私はちょっとこう、読み込みさせていただいて、あの、何点か、疑問がありましたんで、その辺を答えていただけるように、また、ご協議のほど、お願いしたいと思います。

押谷與茂嗣委員：※2 (割り込んで) 委員長もう終わるで。

鋒山委員長：このっ、この点についてははい、柴田課長、ございましたら、

押谷與茂嗣委員：※2 もうええて、もうええて、喋らんでもええ。

鋒山委員長：柴田課長

柴田課長：委員長

鋒山委員長：はい

柴田課長：先ほどのあの一提案の内容につきましては、今回バイオ大学さんから、えー、いただいている提案書になります。

押谷與茂嗣委員：※2 (割り込んで) ※1 まるっぼや。丸投げや。

柴田課長：これはまあ、バイオ大学さんが考えてることですので、

押谷與茂嗣委員：※2 (割り込んで) ほやろ。

柴田課長：先ほどの話でニーズの把握をしっかりとしていきたいと思っております。あの、地域であるとか、えー、産業界であるとか、えー。地域が何を求めているのか、逆に何ができるのかを含めて、えー、大学の方と協議をしまして、まあ、この提案書がより良いものになるように、していった結果、どうするかという判断になってきますので、えー、それをまずしていかないといけないと考えております。

押谷與茂嗣委員：頑張ってくれよ。

福永部長：はい

押谷與茂嗣委員：※2 (割り込んで) もうええて、おまんは。

鋒山委員長：はい、福永部長。

福永部長：えー今、あの一、柴田課長からございましたように、えー、今回の検討については、決して公立化ありきで進めているものではないということでございます。

押谷與茂嗣委員：※2（割り込んで）※1 二枚舌やであかん。

福永部長：それを前提としまして、先般の補正予算の付帯決議で賜りましたご意見をしっかりと受け止めて、今後、議会の方に報告・協議をしていきたいと思っておりますので、よろしくお願ひいたします。

鋒山委員長：他に、ございませんか。

押谷與茂嗣委員：異議なし！

鋒山委員長：はい、北川委員

押谷與茂嗣委員：※2 なんでもほんな伸ばすん。

北川委員：あっ、すいません、えーっと、この18ページにあります、地域社会と時代の要求に呼応した長浜バイオ大学の包括的改革の概要ということで、あの、さきほどからまあ、あの、議題に上がります、公立大学化するという以外、公立大学化ということも含めて、3つの案が、ある、ここには記載されてますけども、どうも、あの一、今の議論でいうと、なんかちょっと、公立大学化が独り歩きをしまってるような、あの一。風には聞こえるんですけども、あの、確認なんですけれども、これは、公立大学化ということではなくて、この今回コンサルを入れるというのも、このバイオ大学と地域連携、えー、最善の道は何かということを探すということでのコンサル、ということよろしいでしょうか？

鋒山委員長：はい、柴田課長。

柴田課長：はい、あの一、仰る通り、えー、地域と大学がどうあるべきかということを考えるのが根本の話ですので、あの一、今回提案、いろんな視点からもらってますんで、あの一、地域にとってより良い大学は何かというところを議論していきたいと思っております。

押谷與茂嗣委員：委員長、もっぺん最後に言わせてもらお。

鋒山委員長：はい、押谷委員…はあ…

押谷與茂嗣委員：あの一、柴田君な、あのやったらええで、しかしコンサル料な、沢山払うんなら、北部の今、荒れて早いこと直してくれていうところにお金を投入するとか、コロナで大変苦慮されているところに支援するとか、ね？本年後、来年度予算の中で、あの、マイナス、カットせんでも行けるようにするのがおたくらの仕事であって、コンサルをどういう、おたくらはせいぜい、あの一、※1 お前、行政のプロやから、まずお宅らで、あの頑張れよ。※1 丸投げしてやな、お金使うだけが能でないぞ。ましてやこの事業なんて今年の5月からやろ。今何月え？10月の20日か。約5か月しかたったらへん、150日やろ？どんな事業でも前の年にゆうて、翌年度に、事業とか調査して、次くらいに事業着手というような流れの中で、な一んでこれだけほんないらつんえ。おかしいやないか。ほらどっかから力働いたるんやろ。ほこらを考えたときに、おまんら行政のプロなんやから。まずおたくらで勉強してくれ。ほれからやってくれ。ほんな錢をただけにつこてもらえる状況でない。※2 わかった？もう答弁はええわ。

鋒山委員長：え、はは、あの、柴田課長。

押谷與茂嗣委員：※2 聞いたんやからな、簡潔に答えよい。

柴田課長：はい、あの一、行政のプロということでさっきお話いただきまして、

押谷與茂嗣委員：※2（割り込んで）プロやろ。ちゃうんか。

柴田課長：はい、今回、あの、えー、検討を進めていく中で、有識者会議とコンサルの予算、あの、9月で、えー、付帯決議付きで、えー、決めていただきましたけれども、

押谷與茂嗣委員：※2 (割り込んで) 付帯決議てついたらさかいにほのこと十分勘定せなあかんちゅうことゆうてるんやで。

柴田課長：そうです、はい、ですので、今回、まずは現状把握をしっかりしたいということで、

押谷與茂嗣委員：※2 (割り込んで) ほれはおたくでできるやんか。

柴田課長：1回目の説明をさせていただきました。引き続き、そこをさせていただく中で、まあ、必要に応じて有識者会議とか、コンサルの、えー、ことも考えていきたいと思っておりますので、ちょっとあの、現状は、まずは私らが考えていることをご説明させていただいておりますので、

押谷與茂嗣委員：※2 (割り込んで) まだ踏み込めたわけでないで？

柴田課長：はい、必要に応じて、また、その進め方について、ご相談していきたいと思っております。よろしくお願ひします。

鋒山委員長：はい、えー、ありがとうございます。

押谷與茂嗣委員：終わろ。

鋒山委員長：えーとですね、あの一、議事録には、公立、公立化ありきではないということが明確にあの一、のこりますので、暫時適正・適切にえー、委員会へのご報告、をよろしく、再度、申し上げておきます。他に質疑ございませんか。北川、北川委員どうぞ。

北川委員：すいません、何度も申し訳ないです…、あの…すいません、よもさん、あの、15ページの今後の検討の進め方について、えー、

押谷與茂嗣委員：※2 やからなごうしたらあかんてゆうてるやろ。

北川委員：すいません、すつ、すぐ終わります。ハッハッ、はい、あの、STEP1 現状把握で、STEP2 地域の大学に求めるニーズの把握と連携の在り方検討、ここに教育関係者ってあるんですけど、あの、今年度、長浜からバイオ大学への進学者っていうのが、確か1名…？ではなかったか、

押谷與茂嗣委員：1か2や

北川委員：2人ですかね、えー、

押谷與茂嗣委員：○○○○○○○ (マイクが入っていないため聞き取れず)

北川委員：地元、はい、地域から進学してる方があまりに少ないっていうここがまず一番の問題だと思うので、私、このSTEP1の現状把握をしてから、連携の在り方検討で教育関係者、STEP2に進むというよりは、まずは来年度の新入生を増やさないと、いけないと思うんですね、地元からの。

それを考えると、あの一、各高校の、あの、教育関係者、まあ、あの校長先生などに、

押谷與茂嗣委員：※2 答弁求めたらあかんて。

北川委員：はい(笑) あの一、まら、協力というか、あの一、進学、あのまあ、バイオ大学への、なんていうんですかね、見学を進めるとか、そういった協力を求めるというのは、これはもう今すぐ早急にしないといけないとは感じております。なので、あの一、ここはもう、コンサルを入れる前に、あの一、ぜひ進めていただきたいというこれは私の要望です。はい。以上です。

押谷與茂嗣委員：終わろ。

鋒山委員長：はい(笑) よろしいですか。

押谷與茂嗣委員：※2 もうええて。もうええて、市長、もうええて。

鋒山委員長：はい、もうよろしいですかー

市長：最後、補足をさせていただくということで、

押谷與茂嗣委員：〇〇〇〇〇〇〇〇（マイクが入っていないため聞き取れず）

鋒山委員長：あ、あー、はい、では簡潔にお願いいたします。

押谷與茂嗣委員：（離席し退室）

市長：あの、すいません、最後時間をいただきまして、ほんと早く進めます、あの、進めます。

あの一、私の方で最初に述べたかったのは今、押谷委員も北川委員も言われたように、この公立化のことは前提ということではないということをもまず明言させていただいて、それでやっぱ地域連携のことを非常に重視して本当にこう、んー、地域のためにこの大学が必要なのか、公立化の前提として、どの程度連携できるのかというところを、まあコンサル等を通じて明らかにしたいというのを大きな目的でありました。まあご指摘のとおり、まだまだ十分庁内で検討せよというのもよくわかりますので、今日大分報告させていただきました。で、今後もさせていただきたいと思います。そして、えー、私たちとしては、この一、バイオ大学というのは簡単な問題ではないと思っています。あの、正直言いまして、誘致活動のときには18億7千万円も長浜市は負担しています。その大学をどう扱ったらいいのかっていうのはそう簡単に答えが出るわけではありません。で、押谷委員が言われるように、えー、他の、あー、日常的なことをもっとやれというご指摘はそれはよくわかります。私たちも補正予算、あの一、9月議会もたくさん出していただいて、日常的なことは一生懸命やっております。12月議会にも目指して準備も進めています。で、そのうえで、えー、他にこの長浜に活気を取り戻したり、若者がもっと住みやすいまちにするためにはどうしたらいいかっていうことで、やっぱ大学は一つの鍵になると思っています。まあ、そういう意味で、これ簡単な問題ではありませんので、いろいろ調査したいというご趣旨で、えー、趣旨で、えー、前回、補正予算等コンサルティング委託の財務負担行為を、えー、えー、認めていただきました。もちろん、議会のご指摘、というところあの、付帯条件が付きましたのは非常にこう、おも、重く受け止めておりますので、え、そのご趣旨に合うように逐次報告しながら、えー、進捗は相談させていただきたいと思っております。どうも補足ですが、えー、ありがとうございました。そういう趣旨です。どうもすみませんでした。

鋒山委員長：はい、はい、ではえー、他に質疑ございませんね。では質疑なしと認めます。当局の皆さん、ご苦労様でした。